

推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



実践事例

渋谷区立幡代小学校

【実践の概要】

飼育の中心となっている、飼育委員および教員、地域ボランティアを対象とした衛生管理に係る指導を担当獣医師から受けました。健康状況の把握、体重管理、えさの種類や与え方などについて教えていただきました。



獣医師からご指導を受ける児童、教員、地域ボランティア

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

本校では、週末や長期休業期間は、地域ボランティアの方が中心となって飼育をしてくださっています。ボランティアの中には、昨年まで本校の飼育委員だった中学生もいます。

長年に渡ってうさぎを見守ってくださる方がいらっしゃるの本校の強みです。



獣医師にたくさんの質問をしている児童たち

【児童の反応】

昨年度から2年にわたり飼育委員を続けている児童も多くいます。ボランティアの方同様、長期にわたってウサギの世話をしていることにより、うさぎの変化にも敏感です。当日は、獣医師の先生に、たくさんの質問をしている姿がみられました。

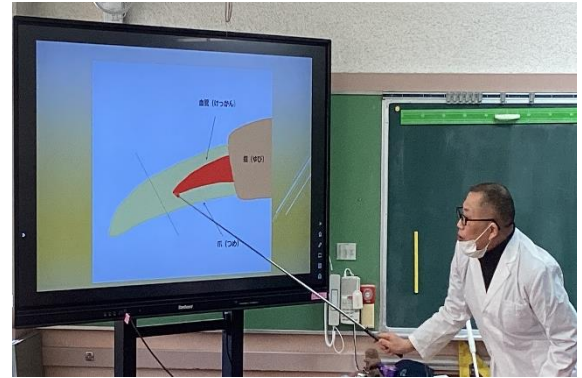


実践事例

中野区立上鷲宮小学校

【実践の概要】

○2年生と飼育委員会を中心に、学校担当獣医師から、モルモットの生態や飼育の際に注意することについて、講話していただきました。モルモットに与える野菜について、学級園で栽培している野菜を与えてもよいかなどを御指導いただきました。



獣医師によるモルモットの生態についての指導

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師による健康診断の実施と、飼育委員会や低学年児童に向けて、モルモットの特性や飼育場の注意について御指導いただきました。
- 夏季、冬季休業中に「モルモットホームステイ」として保護者に家庭での飼育を募集しました。また、地域コーディネーターと連携して地域でモルモットの受け入れを募集しました。

【児童の反応】

- 飼育する動物の健康状態に気を配れるようになり、えさの減り方や糞の状態などに気を付けるようになりました。体重の計測なども曜日ごとに当番を決め、実施することでモルモットの体調の異変にすぐに気が付くようになりました。
- 「どうすればモルモットが気持ちよく過ごせるか」という問題を設定し、えさや隠れ家の置き場所などを児童が考え、飼育しているケージのレイアウトに生かしています。



実践事例

八王子市立宇津木台小学校

【実践の概要】

- 第5学年及び第6学年の飼育委員会の児童が、ウサギ小屋の清掃、水替え、えさやりをしました。
- 学校担当獣医師に見ていただき、お世話の仕方や健康状態の確認の仕方、抱き方や爪切りの仕方について指導・助言をいただきました。



ウサギの爪切りの様子を見学

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会活動時、学校担当獣医師をお迎えして、実際に飼育小屋の環境やウサギの健康状態等について、御指導・御助言をいただきました。
- ウサギを刺激しない上手な抱き方や爪を切る方法を教えていただきました。
- ウサギ小屋と室内飼育用のゲージの環境衛生について、適切なえさの量や糞の始末や掃除の仕方などを教えていただきました。



実際にウサギを抱っこして健康状態を確認

【児童の反応】

- ウサギの生態を知ることによってウサギに興味をもち、ウサギが快適に過ごせるように、餌やりや糞の始末、小屋の掃除を今までよりも丁寧に行うなど、飼育活動に関する意欲が高まりました。
- ウサギを抱いて、体の様子をよく観察することで、愛着をもって接しようとする児童が増えました。



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

7月…前期の飼育・栽培委員会児童対象に指導
12月…後期の飼育・栽培委員会児童対象に指導
指導項目

- ・ウサギの世話の仕方（抱き方、えさの種類と量、清掃）
- ・ウサギの爪切りの方法とその必要性
- ・ウサギの体重測定の方法と、実測、継続的な測定の必要性
- ・ウサギの飼育日誌の書き方の確認と、ウサギの個体カード作成の仕方



7月の委員会活動の時間に、ウサギの体重を測っている児童の様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

第4学年から第6学年までの飼育・栽培委員会の児童（前期・後期制・各5名）を中心に、ウサギの日常的なえさやりや清掃活動等を行いました。

年度当初の学校担当獣医師との打合せの時に、昨年同様、委員会児童を対象とした授業を行いたいとの提案を受け、年2回、実施する計画を立てました。

学校担当獣医師より、授業実施前に、ウサギ用の爪切り、大きめのバスタオルを3枚程度、体重測定用の秤などを用意するように依頼され、必要分を買い足しました。

【児童の反応】

- ・ウサギの体重が分かった。ウサギによって体重が違うことが分かった。
- ・ウサギの爪が長く伸びていて、人間と同じように、爪を切ることが大事だと分かった。
- ・ウサギの爪を切るときに、血が出ないように切るのが難しかったけれど、頑張って切れた。
- ・バスタオルでウサギをくるむと、ウサギが落ち着いたので、安心して爪を切ることができた。
- ・西昇降口や廊下で、ウサギとの触れ合い体験期間を設定し、廊下にウサギの個体カードを置いたこともあり、たくさんの児童がケージの前で、ウサギの名前を呼んで関わったり、それぞれの違いに気付いたりすることができた。



実践事例

小平市立小平第九小学校

【実践の概要】

- 第5学年及び第6学年の飼育委員会児童がウサギのケージの掃除、水替え、えさやりを行いました。
- 学校担当獣医師に健康観察をしていただきました。爪切り、尿の様子等電話による健康相談にも対応していただきました。
- 飼育環境の衛生管理の一環で、清掃用具の整備と担当による定期的な清掃を行いました。



ラックや表示を使って物の位置を分かりやすく整備

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会の児童に向けて、学校担当獣医師をお迎えして飼育環境についてプレゼンテーションを交えてお話をいただきました。
 - ① 抱っこするときは座りながらやさしく抱き上げる。
 - ② えさに牧草（チモシー）をあげることで、歯に良い影響がある。
 - ③ 暑さや寒さが負担になるため、室内飼いを推奨する。
- 上記について改めて確認を行いました。次年度以降の飼育活動に活かしていく。また、ウサギの体調の見取り方について確認するため、児童・教員が獣医師と質疑応答を行いました。

【児童の反応】

- 学校担当獣医師と質疑応答を行い、不安点や疑問点が解決したことで、納得した様子が見られました。
- 学校担当獣医師の御指導をいただき、児童のウサギの持ち運び方が丁寧になりました。
- 牧草を多めの配分にするようにとアドバイスを受け、児童自ら委員会で相談しながらエサの配分を変更しました。